

支部長からのお礼のご挨拶

第 77 回 日本生化学会 中部支部例会・シンポジウムは2013 年 5 月 25 日(土)に名古屋大学坂田・平田ホールで開催されました。参加者総数は過去最高の250名（事前参加登録者205名）を数え、大盛況のうちに無事終了いたしました。

シンポジウムでは、「生命現象を解明する学際的アプローチと生化学研究」と題して、4名の著名な研究者によるご講演を頂きました。野地博行先生（東京大学・工学系研究科）には「ATP 合成酵素の1分子生物物理の最前線」、塩見美喜子先生（東京大学・理学系研究科）には「生殖ゲノムを護る RNA サイレンシングの分子基盤」、深田俊幸先生（理化学研究所・免疫アレルギー科学総合研究センター）には「亜鉛イオンの生命科学：恒常性・疾患・シグナル受容体における新しい展開」、吉森保先生（大阪大学・医学系研究科/生命機能研究科）には「細胞の守護者オートファジー：膜動態、分子機構、疾患との関わり」をご講演いただきました。微細微小空間での熱力学、研究領域に入った経緯、世界のリーダーとして学問を担う熱意と洗練された視点も含めて、分かり易く専門をご紹介いただきました。予定時間がやや超過するほど、会場からは多数の熱心な質疑討論を頂きました。多様な学部・大学院学生や若手・中堅研究者、そしてシンポジストの先生方により、素晴らしい支部例会・シンポジウムとなりました。

ポスター発表は演題総数69となり、午前と午後の2回に分けて、恒例の1分間の口頭発表で研究概略紹介をして頂き、それぞれのポスターを前にして2時間の白熱した討論が繰り広げられました。意義の高い研究が中部支部で進展していることが伝わってきました。ポスター発表では、会員、シンポジストの投票により、青木里奈さん（名古屋大学）、瀬上紹嗣さん（名古屋大学）、廣瀬和也さん（岐阜薬大）、松岡修平さん（名古屋大学）、神谷由紀子さん（名古屋大学）、植田依里さん（名古屋大学）の6名が中部支部奨励賞を受賞されました。

総会におきましては、支部の平成 25 年度の活動報告、会計報告ならびに次期支部幹事投票結果をご承認いただきました。次に、次期支部長候補として名古屋大学の北島健先生を推薦しご承認いただきました。支部長はこの後の本部理事会にて決定されます（任期は2013年9月から2015年8月）。ポスター奨励賞授賞式を行い、上記の6名の成果を讃えると共に研究の一層の進展をお願い致しました。2015年度の生化学会大会の会頭となられる遠藤斗志也先生から、大会の（2015年12月1日～4日：神戸ポートアイランド）ご紹介を頂き、そして最後に、北島健先生よりご挨拶と来年度の例会・シンポジウムのご案内をいただき、全スケジュールを終了致しました。今回は、支部幹事の皆様、とくに柴田秀樹先生、河内美樹先生のご尽力に依存する部分が大きかったことを付記させていただきます。

日本生化学会中部支部例会・シンポジウムにご参加いただきました多くの方々に厚くお礼申し上げます。今後の皆さまのご研究の益々のご発展をお祈り致しまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。

2013 年度 日本生化学会 中部支部長 名古屋大学生命農学研究科 前島正義